



# 学校だより

東京都立府中けやきの森学園  
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1  
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476  
<https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp>  
令和8年1月8日(木)発行 第11号

## 新年の御挨拶

校長 相賀 直

皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。昨年中は、保護者の皆様、地域の皆様の御支援・御協力のお陰で、本校児童・生徒が主体的に学習に励み、自信を付け、大きく成長することができました。本校の教職員も一人一人の児童・生徒を見て取り、自分の蓄積した指導に関する知識や技術をもって、どのようにすれば伸ばすことができるかを考え実践してきた結果でもあったと思っております。教職員も児童・生徒とともに成長してきたという実感があります。本年度はあと3か月となりましたが、1年のまとめの時期として、1日1日を大切に過ごしていけるよう、本校の教職員一同、力を尽くしてまいります。

本校では、児童・生徒が自分らしく成長していくウェルビーイングの実現を目標に掲げています。子供たちが大人になった時に、自分たちの手で、社会に影響を与えることができる、あるいは、変えていけるという希望を学齢期に実感できるようにすることが、教育の使命であると考えています。

これは日々の授業の中で培われるものです。そのために教員は日々の授業を工夫しています。児童・生徒が、自分のことはできるだけ自分でできるようになること、どうしてもできないことは周りに支援を求めること、新しい知識を得ること、体力をつけること、感性を磨くことなどを教員は支援していきます。また、児童・生徒が自己選択や自己決定できるような機会も多く取り入れています。どの教科でもそれが求められますし、教科間で連携していくことも必要です。また、児童・生徒が学校生活全体をとおして学べることには、友達や大人との関わりの中で、仲良く遊んだり、協力したりすること、粘り強く解決に向けて努力すること、皆が納得できる解決策を見出すこと、リーダーシップやフォロワーシップなど、非認知能力と呼ばれている力もあると思います。さらに、校外での学習で見聞を広げ、学校間交流や副籍交流をとおして地域の児童・生徒とも関わっていくことも大切な活動です。本校でそのような体験・経験を多く積んでおくことが、将来への土台となります。

現在、このような営みをさらに全校で高めていくため、カリキュラム・マネジメントを研究テーマとして教育内容・方法を改善していく取組を行っています。地域や社会の課題と関連付けたSDGsの取組も進めています。

結びに、近隣市教育委員会、小学校、中学校、高等学校、関係機関の皆様、本年も本校の教育活動を様々な側面から支えていただきますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 知的障害教育部門中学部学校間交流

知的障害教育部門中学部 主任教諭 三ヶ田 純平

11月25日（火）に府中市立府中第二中学校との学校間交流を行いました。当日は、府中第二中学校1年生A～F組の生徒と協力しながら行ったボール運びリレー競争や合唱の披露により、交流を深めました。ボール運びリレーでは、ボールを待っている間も隣の人と話をしながら一緒に応援をしたり、作戦会議をしたりと和やかな雰囲気が流れていました。K組との交流では太鼓の演奏を聴いたり、マツケンサンバを踊ったりもしました。踊っているうちに楽しくなり、一緒に踊ろうと自ら手を伸ばして本校の生徒がK組の生徒を誘う場面があるなど、短い時間ではありましたが、有意義な時間を過ごすことができました。



## 肢体不自由教育部門高等部学校間交流

肢体不自由教育部門高等部 教諭 寺澤 麻美

12月19日（金）に東京都立府中東高等学校と学校間交流を行いました。今年度の交流も両校の生徒会が主体となり、企画から運営までを協力して進めた取組となりました。当日、生徒たちは二つのグループに分かれ、楽しい活動を通じて親睦を深めました。A・Bグループはパラスポーツとして注目される「ボッチャ」に挑戦し、本校の生徒が、府中東高校の生徒にルールや戦略のコツを伝えながら白熱した試合を楽しみました。一方、Cグループは「マーブリングのしおり作り」に取り組み、色鮮やかな模様を工夫しながら世界に一つだけの作品を共同で完成させました。最後は全員で「以心伝心ゲーム」を行い、「〇〇といえど？」のお題に対して、チームの仲間と同じ答えを目指すレクリエーションを楽しみました。笑顔と歓声に包まれた一日となり、両校の生徒たちは互いの考え方に触れることで視野を広げることができました。今後もこのような交流を通じて、学び合い、理解し合う機会を大切にしていきたいと思えます。

